

経営の健全化に向けて

路面電車は、赤字で厳しい経営状況が続いています。今後は新型低床車両の導入や路線のループ化を行いながら、経営の効率化に努め、収支不足の解消を図っていきます。

現状

乗客減少などで厳しい経営状況

乗客減による収入の減少などにより、経営は厳しく、22年度は、約8,000万円の赤字となりました。今後は老朽化による設備の更新などで、平成36年までに約25億円の費用が掛かると見込んでおり、現在の路面電車の収入だけでは経営が困難な状況になっています。



今後

経営の効率化や利用者負担のあり方を見直すことで赤字を解消し、自立した経営を確立

1

経営形態の見直しの検討と人件費の削減

- ・市が施設を保有しながら、他の事業者が路面電車の運行を行う仕組みの活用など、経営形態の見直しを検討
- ・当面の間、非常勤運転手の活用を進め、15%程度の人件費を削減

2

運賃制度を見直し

- ・今後の収支の見通しや、地下鉄やバスなどの運賃水準を踏まえ、15%程度の見直しを検討

参考(現在):路面電車170円(均一運賃)
地下鉄200円 バス200円 JR160円(いずれも初乗り運賃)

3

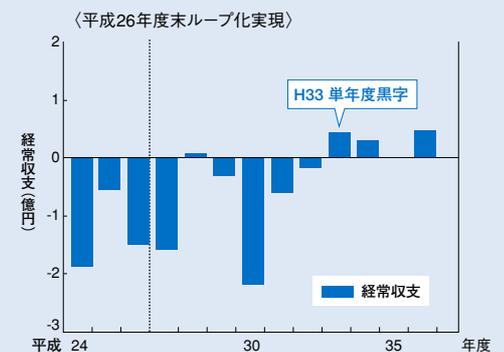
新たな設備への費用と今後の運行・維持の費用について

- ・ループ化や新型低床車両の導入など、新たな設備への投資は、国の補助制度を活用しながら、税負担により実施
- ・車両の運行や、工場や車庫など施設の維持・管理は、運賃などの収入により負担

路面電車 Q&A

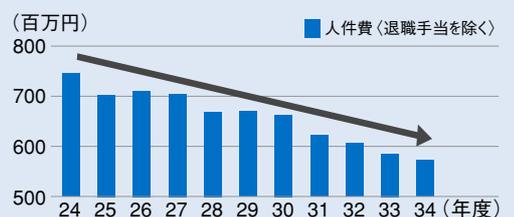
Q 今後の収支の見込みは?

A:左記1~3の実施を見込むことで平成33年頃に単年度の黒字化が図られます。その後も、安定した黒字が見込まれています。



Q 人件費はどれくらい削減されるの?

A:上記の収支見込みの中では、10年間で約1.6億円の人件費の抑制を見込んでいます。



路面電車をまちの力に

路面電車の経営は厳しい状況が続いていますが、市は、経営の効率化とともにループ化などの新たな取り組みを進め、路面電車を生かしたまちづくりを行っています。運転開始から90年以上の間、市民の足として札幌の発展を支えてきた路面電車。その特性を生かした、新しい札幌のまちづくりについて、今一度、みんなで考えてみませんか。

「路面電車活用計画」を配布しています

路面電車を活用したまちづくりの展望や、本計画の策定に当たって市民の方から寄せられたご意見などを示した「路面電車活用計画」を配布しています。

配布場所 市役所5階都市交通課、区役所など

